

樽田の新雪室、物産館などの雪冷房も検討へ 市の整備基本構想(案) 審議で議会サイドより注文相次ぐ

市議会農政建設常任委員会(小林和孝委員長)が8日開催されました。この中で、安塚区の雪中貯蔵施設の整備について審議されました。

雪中貯蔵施設については、2017年12月の火災で改修中だった安塚区樽田の雪中貯蔵施設(雪室)を失った後、この施設をどうするかが問われていました。今回、市は、

いま一度原点に立ち返り、整備方針を一から検討する「こととし、整備基本構想(案)をまとめ、議会側に示しました。

この作業の中で、2017年度に計画されていた「雪室の貯蔵庫増床及び見学ルートの整備」は、①観光対応型の施設、②コメをはじめとす



る農産物の貯蔵に最適な施設、③公共建築物ユニバーサルデザイン指針に適合した施設などに加えて、衛生管理を重視する根拠を備える施設機能を持ったものとして整備するといふふうに変更されました。

基本構想(案)では、道の駅「雪のふるさと やすづか」敷地内に貯蔵スペース300リユール程度(消火前の施設では340リユール)の規模を持った氷室型の雪室を木造で造るとしています。財源は焼失に伴う賠償金や災害共済金。貯蔵スペースは、この財源の範囲の中では最大限を見込んだと言います。

委員会での審議では、市側が「雪だるま物産館」などへの雪冷房は雪室の性能低下につながることに、整備費用が2千万円を超えることなどから断念したとのべましたが、委員からは「環境に配慮した施設となる、観光面でも雪冷房を計画すべき」「雪を売りにしているのに予算がないから」というのはいかかか「雪を売る上で千載一遇のチャンス。雪冷房を外さないで」という思いをく

柿崎区でも津波浸水想定説明会

柿崎コミュニティプラザで11日、「新潟県の新たな津波浸水想定に係る住民説明会」が行われました。説明会では、新潟大学災害・復興科学研究所の准教授、ト部厚志さんが、「太平洋側と日本海側の津波の特徴を踏まえた上越地域における津波浸水想定について」説明してくださいました。

ト部さんは、1983年の日本海中部地震から説明に入り、「日本海側でも津波がある」こと、全国で同じパターンの被害が繰り返されていることを明らかにしました。そして、上越地域の地震環境などを知り、「常に、想定外を考え、最大限の準備をすることが重要」「津波は太平洋側のように大きな高さにはならないものの、『海岸までの到達時間が早い』ことなどを重視すべきだ」と訴えられました。

柿崎区の浸水想定では、信越線を境に海岸側は大部分が浸水すること、柿崎橋の上流の浸水想定域でも浸水被害の出ない高い標高の土地もあることなどが丁寧に語られました。



「雪冷房を設計してほしい」という発言を重く受け止め、持ち帰って検討する(野口副市長)とのべました。

今回の基本構想(案)に基づき、新年度当初予算に係る予算が計上される見込みですが、この日の議論によって見直しは必至の情勢です。今後、どうなっていくか注目です。

「委員会の意見として承った。何ができるか検討したい(近藤農林水産部長)」「雪冷房を設計してほしい」という発言を重く受け止め、持ち帰って検討する(野口副市長)とのべました。



【田んぼの中で】まだ2月だというのに、田んぼの中ではゲンゴロウの幼虫らしきものが動いていました。11日、吉川区小苗代にて撮影。



【ハマダイコン】2月だというのに、玄関先で花を咲かせているハマダイコンを見つけました。ひよとすれば生でないかもと触ってみましたが、間違いありませんでした。花は紫色。柿崎区上下浜にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.1897 2019.2.17
 発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第五四五回

早春の青い花

何度見てもまた見たくなる。野にある花にはそういうものが少なくありません。早春に青い花を咲かせるオオバコ科のオオイヌフグリモそのひとつです。

今月の五日でした。市役所での仕事が午前一過ぎに終わり、自宅に帰る途中のことでした。ふと、オオイヌフグリのことを思い出して、隣の集落の農道へと車を走らせました。

この日は二月とは思えないほど暖かい日差しが大地に降り注いでいました。「こんな日は花がぱっと咲いているに違いない」そう思った私は、何となく落ち着きませんでした。

目当ての場所に到着して車を降りると、すぐにオオイヌフグリの花の姿が目に入ってきました。明るい青、コバルトブルーの花があちこちに咲いていたからです。まさに全面開花といった感じの咲き方でした。

ちょうどお日様の位置が上の方にありましたので、私は、どの角度から花を撮ろうかとカメラを動かしながら、写真に撮る花を特定しようとしていました。

そのときです、赤紫の花が目に入ったのは……。一瞬、目を疑いました。青い花だけでなく、赤紫の花もある。私には信じられませんでした。私が野の花を意識するようになってからすでに三〇年近くになりますが、オオイヌフグリのことは、これまで青色の花以外は見たことがなかったのです。

ひょっとすれば、このほかにも赤紫色のものがあるかも……。そう思って探しましたが、やはり、赤紫色の花は私が見つけた一つだけでした。ただ、よく見ると、隣近所のオオイヌフグリモ明るい青が基本色ではありましたが、四枚の花びらに赤紫色の縦筋が入っていました。これらも同じ色

になる過程なのかも知れません。

私は、ワクワクしながら、カメラでこれらの花を何枚も撮りました。これまで何千枚もの花の写真を撮ってきましたが、今回撮った写真は、間違いなく私の宝物のひとつになります。

家に戻った私は、さっそくパソコンを立ち上げ、インターネットでオオイヌフグリのについて調べました。でも、まれに白やピンクはあっても、赤紫色の花を咲かせることがあるとは書いてありませんでした。それほど珍しいものだったのです。

生物学上、どういう事情で赤紫色の花をつけたオオイヌフグリが出現したのかわかりません。ただ、私には、近くで咲いていたヒメオドリコソウの赤い色と関係しているのではないかと素人なりに考えているのですが、どうでしょう。

私にとって、オオイヌフグリが赤紫色の花を咲かせることがあることは新発見でしたが、インターネットで調べていて、もう一つ、知ったことがあります。それは雪に耐えるオオイヌフグリの秘めた力についてです。

そこには、「寒さに耐えるため、細胞内の糖濃度を高める機能を持ち、葉と茎に生える短い毛で雪と霜を遠ざけて保温する」とあったのです。今冬のように、雪が降っては消え、降っては消える激しい変化に耐えて、オオイヌフグリが青い花を咲かせ続けるのはなぜか。ずっと疑問に思っていたことが、ようやく解決しました。

オオイヌフグリが雪下野菜や雪室貯蔵の野菜と同じように細胞内で糖濃度を高め、寒さに耐える植物だった。今回、そのことを知って、野の花にはまだまだ私の知らない世界があることを改めて感じました。ますます面白くなってきました。

「新春の集い」で議会報告

希望館で10日、開催された「新春のつどい」で日本共産党上越市議団は、最新の市議会報告を行いました。

私からは、8日に行われた農政建設常任委員会の所管事務調査において、安塚区で再建される雪室について施設冷房の機能も持たせるよう求める声が相次いだこと、長岡市の官製認合事件から学ぶ入れ制度改革の必要性などを報告しました。

上野市議からは、12月議会において市内の全小中学校の普通教室など



にエアコン設置の予算が出されたことなどを報告しました。

「つどい」では歌や寸劇、クイズなどを楽しむ交流会もありました。写真は交流会の様子です。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月6日(水)	2月13日(水)
上越南消防署	0.040	0.050
上越北消防署	0.057	0.043
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.047	0.050
頸南消防署	0.060	0.060
東頸消防署	0.040	0.040
高士分遣所	0.040	0.057
名立分遣所	0.053	0.053



端餅(はしもち)

先日、安塚区の道の駅にて懐かしい食べ物を見つけました。「端餅」です。

子どもの頃、この端餅の餅がおいしくて、キョウダイで競争して食べたことを思い出しました。

写真の3倍くらいの端餅が入った1袋が320円。いい買い物をしました。